

心を言葉に、こころを心に

NO.4

第26回あいち学童保育研究集会

☆☆つながって明日へ進もう学童保育☆☆

日時 2009年2月22日(日)

9:30 ~ 4:00 午前・記念講演、午後・分科会

会場 南山高校男子部(名古屋市昭和区) 地下鉄鶴舞線いりなか駅から徒歩5分

参加費 1200円

保育(3歳以上):500円 お弁当:700円(保育・弁当とも要申し込み2月10日まで。)

なんと、今回の研究集会は、劇団うりんこが、学童保育の発展を願って、特別に演劇の上演を行います。うりんこの演劇が観られて、庄井さんの話が聞けて、研究者や多くの学童保育の保護者・指導員と語り合える。とてもステキで満足度が高い研究集会になりそうです。さあ、声かけあって申し込みを！

全体会 9:30 ~ 12:00

全体会プログラム

9:30 開始実行委員長挨拶

9:40 劇団うりんこ上演 「放課後の子どもたち(仮題)」

10:00 「日本の学童ほいく」誌宣伝アピール

10:10 記念講演

「揺れる子どもの心を聴くー希望を紡ぐ子育ての絆ー」

講師 庄井良信さん(北海道教育大学大学院・教授)



11:50 事務連絡

分科会 1:00 ~ 4:00

(実施要綱を見て、申し込んでください。分科会は先着順ですので、お早めに！)

学べることいっぱい。

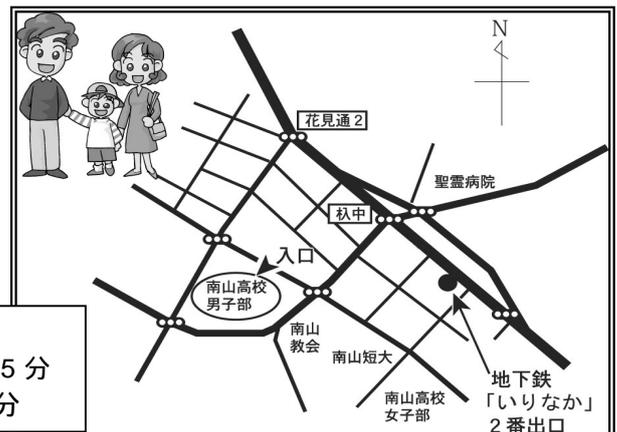
充実した1日。

誘い合って

ぜひ参加を。



南山高校男子部
地下鉄いりなか下車徒歩5分
市バス秋中下車徒歩5分



◇劇団うりんこ の紹介◇



劇団うりんこが、学童保育の発展と子どもたちの豊かな放課後を願って、「なごやっ子の放課後を考える会」のために「空飛べ大地を駆ける、風の又三郎」を作りました。

09年1月31日に行われた「なごやっ子の放課後を考える会大集会」で上演され、鑑賞した子どもから大人まで、大いに笑いつつ、見入っていました。

この作品をベースに、今回のあいち学童保育研究集会では、また新たな放課後の子どもの姿が、舞台を駆け回ります。お見逃しなく。

「空飛べ大地を駆ける、風の又三郎」の紹介

宮澤賢治が大好きなお父さんがいる風野家。ある日風野家のお母さんの勤務時間が長くなることになり、こどもの又三郎が、放課後をどう過ごすかが、風野家の心配事でした。又三郎は「子どもにも意見表明権がある」と、夕陽丘教室(とある放課後子ども教室)と学童クラブ(とある学童保育所)の両方を実際に見に行くことに…。そして夕陽丘教室と学童クラブでそれぞれ1日の生活を体験をして、又三郎は何かを感じたようです。

さて、何を感じたかというところ…。

宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の現代っ子版パロディーも盛り込まれ、見所満載、笑いどころ満載の「空飛べ大地を駆ける、風の又三郎」でした。

いつか、もう一回みたい舞台でした。



劇団うりんこの紹介

名古屋市名東区にうりんこ劇場を構え、全国で公演をしている、名古屋を代表する劇団です。作品は大人向けから子ども向けまで多くのジャンルを手がけています。毎年「夏休み子ども劇場」「クリスマス公演」等をうりんこ劇場で行い、多くの学童保育所が観劇に出かけています。また小学校での公演も数多く行い、たくさんの子供たちが、うりんこの劇を見ています。名古屋市芸術奨励賞・愛知県芸術文化選奨等、多くの賞も受賞しています。

「空飛べ大地を駆ける、風の又三郎」も研究集会の舞台もつくられる作者、本田忠勝さんのメッセージ(要約)

宮澤賢治の「雨ニモマケズ」のパロディーで現代っ子の状況と叫びを表わした誰が書いたか知らない詩を読んだとき、「これはきっと、子どもの人間的成長発達に危惧を抱く、親が誰かの告発ないしは叫び。」と聞こえました。この詩に語られている痛烈な批判を、「子どもたちの要求は無視して、塾の真似事をしたり、危ないことを避け、おとなしく、なにごともなく、日々が過ぎてくれればよいという」大人の考える保育(?), 行く場所があればよいという論理や財政難を理由とする子どもの立場に立てない放課後施策などへの警鐘に読み替えました。これからの時代を背負っていく子どもたちにこそ真の人間発達を保障する教育、保育の指針と手厚さと思うのです。

短い時間で劇的表現による学童保育の進歩のための台本は難しいけれど、自然主義的リアリズムではなく、パロディーとして、笑い、怒り、泣くそんな舞台にできるといいですね。

